

消費税

「消費税」とはどんな税金？

10月から消費税の増税を控え、以前より消費税の増税や軽減税率についてニュースで取り上げられています。しかしながら、消費税がどういった税金なのか皆さんはどこまでご存じですか？この機会に消費税について少し勉強してみましよう。

消費税は、基本的に日本国内で消費されるものに対して幅広く上乗せされており、最終的には国に対して支払う税金になります（一部は地方に配分されています）。国に対して支払う主な税金を下にまとめましたが、消費税は他の主な税金と比べても範囲が広いのがわかると思います。

<国に対して支払う主な税金の比較>

税金の種類	どんなときに税金を支払うの？	どれくらいの税金がかかるの？ (2019/8時点)
消費税	コンビニやスーパーで物を買ったりとか、電車に乗るとかホテルに泊まるとかのサービスを受けたりする場合に支払います	現在は一律8% (2019/10以降は原則10%・軽減税率対象品は8%)
所得税	個人（サラリーマン等含む）が頑張って稼いだお金に対して支払います	5～4.5%（稼いだお金が多くなるほど、稼いだお金に対する所得税の税率も高くなります）
法人税	会社が頑張って稼いだお金に対して支払います	23.2%（一般的な会社で一定額以上の利益が出ている場合）
相続税	個人が亡くなったときに持っていた財産に対して支払います	10～5.5%（亡くなった方が持っていた財産が多くなるほど、財産に対する相続税の税率も高くなります）

消費税が導入されたのは平成元年（1989年）4月1日で、当時の消費税率は3%でした。導入理由は、少子高齢化対策（昔も今も変わらない？）や所得税に偏っていた国の税収のバランスを取るため等でした。自分はまだ小学生でしたが、自動販売機で買うコーラがいくらになるの？と学校で話をしていた記憶があります。その後、5%→8%と段階的に消費税率が上がってきました。

<理解度チェック>

合計4回（各2～3問）のクイズに答えて、QUOカード等豪華賞品を手に入れよう！クイズは毎回の記事の内容に基づいています。皆さん、是非チャレンジしてみてください。

<Q1>日本で消費税が初めて導入されたのはいつ？
A:1989年4月 B:1997年4月 C:2014年4月

<Q2>琵琶湖は昔どのように呼ばれていた？
A:京淡海 B:近淡海 C:遠淡海

消費税は実は昔から存在していた？

実は、消費税が導入される以前にも1940年から同じような税金が存在していました。「物品税」と言われる税金で贅沢品と思われるものに対してこの物品税を支払う必要がありました。

物品税の具体例として乗用車、宝石やゴルフクラブ等があったようで、物品税に関して面白い議論があったので1つ紹介します。レコードもぜいたく品ということで当時物品税の対象になっていましたが、教育のことを考えて童謡は物品税がかからない、となっていました。昔大ヒットした「およげ！たいやきくん」等のレコードは童謡なのか？と国税局でも検討され、結局童謡ということで物品税を払わなくて良くなったようです

（国税庁としても大ヒット曲から当時の価値で1億4千万円の税金をとれる可能性があったので必死だったのかも）。

こうした歴史をみると、今議論になっている軽減税率の対象範囲（グレーゾーンとなる商品の範囲）と同じように感じるの自分だけでしょうか？歴史は繰り返されるのでしょうか。次回は皆さんの暮らしにも関係している軽減税率の対象品についてお話していこうと思います。



淡海に想う

「琵琶湖」の名前の由来について①

皆さんは、「琵琶湖」の名前の由来をご存知ですか？いつから琵琶湖と呼ばれているのでしょうか？実は琵琶湖と呼ばれるようになった歴史は意外に浅く、本格的に琵琶湖の名前が登場するのは江戸時代に入ってからで伊能忠敬の地図に「琵琶湖」という名前が記載されていたことで全国に琵琶湖の名前が知られるようになりました。

それまでは、「淡海」や「近淡海」という言葉が万葉集等にでてきています。「海水と違い琵琶湖の水は塩の味がしないけど、海のように広い」ということで「淡海」という言葉が使われていたようです。

ちなみに、当時の都である京都から遠い場所にある淡海ということで浜名湖は「遠淡海」と呼ばれ、浜名湖周辺（現在の静岡県）は「遠江国」と呼ばれていました。